

## 平成 25 年度第 1 回理事研修会 会長挨拶

昨日の総会・研修会、大変お疲れ様であった。皆様のお陰で総会が順調に運営され、提出議案の全てをご承認いただいた。厚くお礼申し上げます。

平成 25 年度道小の活動計画、会務、決算・監査報告、予算等の議案が承認されるとともに総会宣言ならびに 2 本の特別決議「学力向上に関わる決議」「いじめ・不登校のない学校づくりと体罰根絶に関わる決議」が採択された。今後は、業務執行機関としての理事研修会に委ねられる。よろしく願います。

本日の理事研修会では、各専門部の組織づくりと年間活動計画について、また平成 25 年度の文教施策・予算策定に関する要望書作成ならびに「学力向上を中核に据えた本道教育の充実に向けた 3 つの提言」について、また道小第 56 回渡島・北斗大会の分科会運営体制などについての協議をお願いする。

新年度、新組織としてのスタートに当たり、そのどれもが大変重要な内容であり、昨日の総会を受けて本日から早速、道小の具体的な取組が開始されることになる。理事研修会は、今年度より 10 月に第 4 回理事研修会を行い、年間 6 回の開催となった。この 1 年間、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展のため、各地区において理事の皆様が遺憾なく力を発揮していただくため、充実した研修・情報交流の場となるよう努力していきたいと思う。理事の皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

第 1 回の理事研修会に当たり、今年度の北海道小校長会として大切にしたい姿勢について 5 点お話しする。

その 1 つは、「志高く、信頼と協働に基づきともに進む校長会としての姿勢」を大切にしたいという点である。

私たち校長は、学習指導要領に基づき教育課程の充実に全力を傾注する一方、本道教育に横たわっている極めて厳しい現実から目を背けることなく、真正面から取り組んでいかなければならない。服務規律や法令順守の確立に向けた学校経営の質の改善・向上、子どもの未来を支える学力の質の改善・向上や子どもの「命と心の安全」に的確に対応することができる教員の教育者としての質の改善・向上などに対して、一人一人の校長が学校経営の最高責任者としての職責の重さと保護者・地域からの期待の大きさを自覚し、明確なビジョンを持って改善の方策を具現化させていきたいものである。

また、こうした課題をマイナスの側面からばかり見つめるのではなく、学校の組織力を高め創造的な学校改善に踏み出す絶好の機会と捉え、マイナスをプラスに転じる気概をもって教育への志を高く掲げ、力強く前進していきたいと考えている。

今年度、道小は「志高く、信頼と協働に基づき共に進む校長会」を目指し、地区校長会と、そして、道中・道 P など教育関係諸団体と信頼に基づく協働体制を構築し、活動の一層の充実を図っていききたいと考えている。

その 2 つは、「学校現場からの声をしっかりと受け止め、校長会としての声を発信する姿勢」を大切にしたいという点である。

道小は、地区校長会や各学校の学力向上に対する真摯な取組を支援するため、昨年度 3 分の 1 の会員を対象に学力向上の取組に関する調査を実施し、その結果を今年度の「学力向上を中核に据えた本道教育の充実に向けた 3 つの提言」及び「文教施策・予算策定に関する要望書」の中に取り入れた。

様々な教育課題に対して、印象をもとにいくら語っても、空虚な論理の繰り返しにしかない。

学力向上に対する取組、いじめや不登校・体罰根絶への対応、法令順守や広域人事、さらには、時間外勤務の縮減や子どもと向き合う時間の確保など、学校現場における事実把握や調査を細かく実施する

ことで「学校現場からの声」をしっかりと受け止め、時機を逃さず「校長会としての声」を関係教育機関へ積極的に発信する具体性と機動性のある活動を展開することが重要である。学校現場からの具体的事実、学校現場からの発想を大切にしたいと校長会でありたいと考えている。

その3つは、「教育関係諸機関との良好な関係づくりを目指す姿勢」を大切にしたいという点である。

道教委・各市町村教委と校長会との関係においては、単に車の両輪に例えるだけではなく、現場の生の声を把握する調査活動を基に情報交換を積極的に実施し、適度な緊張関係の中で、学校や子どものため、共に対応を考えることができる連携と協調を大切にしたい関係でありたいと思っている。

また、私たち校長は、学校経営の最高責任者として、保護者や地域社会に対して自らのビジョンを積極的かつ具体的に分かりやすく発信することが常に求められている。

校長会としても、道Pとの協働・協力関係の推進について、真剣にかつ具体的に検討したいと考えている。

その4つは、「日々、良質の授業が提供される学校づくりを目指す姿勢」を大切にしたいという点である。

全ての子どもたちが「明日の登校が待ち遠しい」と感じ、全ての教職員が高い意識をもって職務を遂行する。そして、子どもたちに日々良質な授業が提供される。そうした学校づくりを目指さなければ、どのような目標や評価指標をもってきても徒労に終わることは目に見えている。

学習活動の質がいつも話題となるように、授業改善の道を探る個々の教師の取組を組織化していくのは、校長の力量である。学校経営の質の改善・向上を目指す実践者となるように、教師一人一人の力量形成を図るためにコーディネートするのが校長としてのリーダーシップであり、信頼される学校もここから始まると言っても過言ではない。

道小の使命は、「本道教育の質の向上」である。全ての学校で、日々良質な授業が子どもに提供され、子どもの姿で教育活動を評価し、改善への取組を粘り強く進められるように、常に子どもの学びの姿を大切にする校長会でありたいと思う。

その5つは、「校長会として、未来的な思考で活動改善を目指す姿勢」を大切にしたいという点である。

道小は、これまでも組織・業務の見直し、活動の改善に取り組んできた。

今年度も、機関紙「教育北海道」と道小ホームページの内容を検討し、教育北海道の発行回数を減らしたり、事務局長・研修部長研修会のあり方や理事研修会のもち方を検討したりしてきた。

しかし、単に会員数が毎年減少していくからスリム化を図ると言うだけでは、次々と押し寄せる教育課題に対する対応や時代の要請に応えることはできない。

今年度、渡島小中学校校長会の皆様に主管していただき、「北の大地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校経営の推進」を大会副主題として、教育研究渡島・北斗大会を9月13日・14日に開催する。すでに現地では、実行委員会が組織され着実に準備活動が展開されていると聞き及んでいる。充実した大会となるよう、道小としても研修部を中心に分科会の運営などについて検討を重ねている。

ただ、来年度以降の研究大会の有り様については、検討する時期に来ているように感じている。また、平成22年より5年間と期限を切って実施してまいりました地区活性化支援事業や、地区研修補助金を含めた一般会計の見直しなど、道小の活動全般に対する見直しも必要ではないかと考えている。

校長会としての役割を自覚し、その活動を後退させることなく、活動改善と充実に向け、今年度いくつかの特別委員会を立ち上げ、検討を開始していきたいと考えている。

以上5点にわたり、校長会として目指す姿勢についてお話しさせていただきました。

「姿勢」とは、勢いのある姿と書く。次々と押し寄せる荒波にもまれ続け、学校現場においては、重苦しい空気が漂っているようにすら感じられる本道教育だが、今年度、全道各地区校長会、そして、全道の各校長先生が「勢いのある姿」で、北海道の子どもたちのために力を尽くされることを期待している。

どうぞ、この一年間、よろしく願います。